

高橋まさかず市長活動報告

VOL.9

■発行日：2023年1月
■発行元：高橋まさかず後援会

秦野みらいづくりプロジェクト (5つの誓い2022)に挑戦！ ～秦野を変える実現力～

明けましておめでとうございます。

昨年1月、二期目の市政のかじ取りをお任せいただき、早いもので1年が過ぎようとしています。皆様には、変わらぬご支援とご指導を賜り感謝申し上げます。

令和2年(2020年)1月から国内での感染が広がった新型感染症が3年に及ぼうとしています。加えて、ロシアのウクライナ侵攻による影響から、物価高騰対策も余儀なくされています。

8回目の感染拡大の波とインフルエンザの同時流行が懸念される中ではありますが、引き続き、市民の皆様のご理解ご協力をいただきながら、「感染拡大防止」に有効なワクチン接種を可能な限り進めてまいります。同時に、アフターコロナを見据えた「新たな日常」を模索しながら、物価高騰対策にも目配せして、社会経済活動が停滞することなく、この未曾有の危機を乗り越えたいと思います。

昨年4月16日、待望久しかった新東名高速道路(秦野区間)が開通し、令和9年度(2027年度)には全線が開通し、「秦野丹沢サービスエリア」も開設されます。この好機をとらえて、「表丹沢の魅力づくり」と「小田急4駅周辺にぎわい創造」、「駅と駅をつなぐ地域資源の活用」、これらを一体的に進めることにより、「全国屈指の森林観光都市」を目指します。そして、市民の皆様がふるさと秦野に対する誇りと愛着を深めるとともに、関係・交流人口の増加、定住促進につなげてまいります。

また、切れ目のない子育て支援策を充実させ、秦野市の魅力をより一層高めたいと思います。最大の課題であった「中学校給食の完全実施」は、一昨年12月に計画通り開始することができました。関係の皆様のご尽力に感謝するとともに、今後は、「安全・安心でおい

しい、生徒が喜ぶ中学校給食」のさらなるレベルアップを目指してまいります。そして、引き続き「地域医療の充実・強化」と「教育水準の改善・向上」に取り組み、結婚・妊娠・出産から社会に巣立つまで切れ目のない子育て施策を展開してまいります。

「秦野を変える新しい風」から「秦野を変える実現力」にステップアップした二期目の市政に課せられた課題は、これだけにとどまるものではありません。「2050年カーボンニュートラルへの挑戦」や「デジタル化の推進」といった新たな課題も含めて、皆様にお約束した「5つの誓い2022」を反映させた総合計画「はだの2030プラン」の実現に向けて、着実に前進させる大切な1年と位置づけ、市政運営を進めてまいります。

本年が、皆様にとって実りある1年になりますことを心からお祈りするとともに、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げまして、新年にあたっての挨拶とさせていただきます。

秦野市長 高橋 昌和

緑豊かな故郷・秦野 未来につづけ

後援会員の皆様、市民の皆様、明けましておめでとうございます。日頃より、高橋まさかず後援会の諸活動について多くのご支援とご理解を賜り誠にありがたく心より感謝申し上げます。

コロナ禍が3年の長きにわたり続いておりますが、少しずつウイズコロナでの活動が定着しつつあります。こうした状況を踏まえ、後援会活動を充実させる為に、市内各地区での小規模での懇談会形式の集会の実施や、様々な団体組織の集まり等へのアプローチを積極的に推し進めたいと思っています。

また、市が進めている森林観光都市の形成には私たち市民の動きも必要だと思っています。外から訪問される方々へのおもてなし、それは市民一人ひとりが庭先の花植え、街の美化等に心がけることにもあると思います。自然豊かな環境を子や孫にのこしていきたいと考えています。

本年が皆様にとり健康で実り多き一年となります様心よりお祈り申し上げます。新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。

高橋まさかず後援会 会長 三杉 克篤

HAPPY NEW YEAR

2023



より良い幼児教育・保育環境を目指して

切れ目のない子育て支援



市では、「安心して子供を産み、喜びと責任をもって子育てができるより良い環境づくり」を目指して、妊娠、出産から育児期まで切れ目のない支援ができるよう、様々な子育て支援事業の充実に取り組んできました。

その一環として、生涯にわたる人間形成の基礎を培う大切な時期となる幼児期における「幼児教育・保育環境の整備」は、

少子化の進行や時代の変化に対応していく上で、直面する大きな課題になっています。

子どもたちを取り巻く幼児教育・保育環境は、少子化の進行とともに、保護者ニーズが教育利用から保育利用へと移り変わり、就園状況にも変化が生じています。このことから、平成31年4月に、みなみがおか幼稚園を市内初の「公私連携幼保連携型認定こども園」に移行しました。また、令和4年4月からは、望ましい集団性を確保するため、大根幼稚園とひろはたこども園を一体化しました。そして、令和7年4月の開園を目標に、ほりかわ幼稚園をみなみがおか幼稚園に続いて、「公私連携手法による幼保連携型認定こども園」へと移行していくこととしました。民間活力を活かしたこども園化を進めることで、保護者からの要望が高い教育利用における3年保育を実施するとともに、保育ニーズが高い同地区の保育環境を整備することで、子育て支援の充実に努めていきます。



新たな日常をつくるデジタル化の推進



児童生徒に1人1台の「タブレット」を配置する「GIGAスクール構想」の状況を視察（東中学校）

今、ICT（情報通信技術）は、日々進歩を続け、私たちの生活になくてはならない存在となっています。さらに新型コロナウイルスの出現により、「新しい生活様式」への転換が社会全体で進む中で、時間や距離の制約を受けないICTの活用は、ますます重要になっていくものと考えます。

この時代の趨勢ともいえる社会のデジタル化という流れをしっかりと受け止め、市民の皆様にとって、便利で優しく、より一層快適な市民生活が送れるよう、「誰一人取り残されないデジタル化」を積極的に進めています。

今後、様々な場面で必要とされるマイナンバーカードは、現在、約三分の二の市民の方から取得申請をいただいで

います。既に、全国のコンビニで住民票などの証明書が取得できますし、対応可能な医療機関では「健康保険証」としても使えます。「引っ越し（転出・転入）ワンストップサービス」も2月から開始され、「運転免許証との一体化（令和6年度予定）」など順次利用が拡大される予定です。

また、新型コロナウイルスの長期化に加え、物価高騰等の影響を受けている市民生活及び地域経済の回復を後押しするため、「プレミアム電子商品券事業（7,000円分の商品券を5,000円で、1月31日まで販売）」を実施しており、秦野市で初めての取り組みとなります。

デジタル化を進めるうえで、誰一人取り残されないことが何より大切であり、今回はその試金石となるものです。キャッシュレス決済に慣れていない方などにも参加していただけるよう、スマホ教室の開催など様々な方法を通じてサポートしています。

これらの取り組みを通じて、市民の皆様の生活の応援と、地域経済の回復をしっかり後押しするのみならず、デジタル化の推進に、より一層弾みがつくことを期待しています。



2050年カーボンニュートラルを目指して

秦野らしさを生かした 地球温暖化対策



秦野市では、令和3年3月、二酸化炭素の排出を実質ゼロとする「2050年ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明しました。また、同11月には、カーボンニュートラルのまちづくりによる、恵み豊かな環境の保全、市民の安全で安心な暮らしの実現及び市民との共創によるまちづくりを目指し、秦野ガス株式会社、東京ガス株式会社及び市の3者による包括連携協定を締結しました。その取組みの第1歩として、学校の屋上に太陽光発電パネルを設置する事業の検証作業を共同で実施しています。そして、その検証結果をもとに順次、広域避難場所に指定されている学校への設置を進める予定です。昨年4月には、こうした「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取組みを進めるため、「秦野市地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

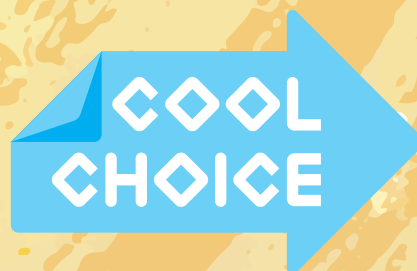
秦野市の大きな特色の一つは、市域の52パーセントを森林が占めていることであり、この地の利を最大限生かした二酸化炭素の吸収促進策が必要です。木材は成長の過程で吸収した二酸化炭素を固定化していますので、木造建築物や家具などで使用することで、街の中に二酸化炭素を貯蔵することになります。森林は、植樹－育樹－活樹といったサイクルによって、地球温暖化防止に大きく貢献しています。

市役所では、職員の意識改革と率先行動として、ペーパーレス、WEB会議、マイバック、マイボトルなど、小さなことでも積み重ねていく、足元からの取組みを実践しています。また、再エネ由来電気やカーボンニュートラル天然ガスへの切り替え、太陽光発電による自家消費などにも取り組んでいます。公用車の更新時にハイブリッド自動車や電気自動車に切り替えていくこととしています。さらに、省エネ効果が高いLED照明への切り替えを、令和4年度からの小中学校を手始めに、順次公共施設に拡大していくこととしています。

2050年カーボンニュートラルを実現するためには、市民の皆さん、そして、次世代を担う子供達の環境問題を「ひとごと」にしない「みんなごと」の行動が必要です。それぞれの立場で、地球やふるさと秦野の将来について、考え、行動していきたいと思います。



北小「学校林」に6年生が植樹



未来のために、いま選ぼう。



表丹沢総合ホームページ
『OMOTAN』

高橋まさかず市長活動報告

〔7月6日〕市内の福祉施設を視察。



「くず葉学園」



「生活介護事業所はみんぐ」

〔7月30日〕駐横浜韓国総領事館とデフリンピックの自転車競技日本代表チームの皆さんが、宮ヶ瀬からヤビツ峠をめぐる緑水庵まで走り交流を深めました。



〔9月24.25日〕3年ぶりに通常開催された「第75回秦野たばこ祭」多くの市民で賑わいました。



〔10月24日〕秦野産の木材を使って、新たに農産物直売所と休憩スペースをリニューアルオープン。



〔10月29日〕三屋halloweenイベントに「8時だよ！全員集合」のハッピー姿で参加。



〔11月3日〕感染症対策ガイドラインの下、3年ぶりに通常開催されました。



〔11月14日〕朝日新聞で紹介された次世代交通システム「zipparの自走式ロープウェー」の研究・開発を支援。



〔12月11日〕全日本女子野球連盟から県下で初の「女子野球タウン」に認定されました。今後の活躍が期待されます。



【高橋まさかず後援会事務所】

〒257-0012 秦野市西大竹134番地

令和5年1月 活動報告第9号

Tel/Fax.0463-68-3939



高橋まさかず

takahashi-m.jp